

国語科学習指導案

指導者 坂本八十八

1 日 時

平成16年6月1日（火） 第4限

2 学 年

第6学年（男子18名 女子10名 計28名）

3 単元の紹介

(1) 単元名 「デジタル歴史ガイドブック清水を作ろう」

(2) 単元設定の意図

ゲームの使用解説書や攻略本、社会見学のパンフレットなど、日常生活の中で児童がガイドブックに接する機会が多い。しかし、その多種多様な情報の中から、必要な情報を取捨選択し、効率よく活用することは案外難しいものである。読み手にとって必要な情報をまとめたのがガイドブックであるが、分かりにくい読み物の典型となっていることが多い。

児童は、これまで、朝の会でデジタルカメラで撮影した画像を紹介しながらスピーチをしたり、朝の学習で物語・詩などの音読を行ったりしている。話し手の児童は、適切な音量と速度に留意しながら話の構成などを工夫している。聞き手の児童は、相手の話を聞き取るだけでなくメモを取り、自分との生活や意見などと比較しながら自分なりの感想や意見をもてるよう努力している。メモを取って聞くことは、「聞く力」とともに「書く力」を鍛えることになる。

本単元では、「利用者が関心をもって活用し、実際に役立つ情報が提供できる」ガイドブックを目標に、作成者の側から創意工夫しガイドブックを製作させる。題材は、総合的な学習「ふるさと歴史発見」と関連させ、校区内に残る史跡を取り上げる。主な利用者として、県外の人々・歴史学習や総合的な学習を行っている小学校高学年の児童を想定し、完成したガイドブックはホームページに掲載することも視野に入れる。

今回、音声言語を主体に文字言語・画像を加えたプレゼンテーションを作成することで、話す・聞く力の育成に重点をおく。利用者を意識して、目的に応じて情報を収集し、その中から必要な情報を取捨選択し、構成を工夫していく。パワーポイントで作成した文字言語や画像のスライドを、音声言語で紹介する動画を同期させ自動提示できるWebオーサリングツール「プロデューサー」も使用する。このプロデューサーでガイドブックを作成することにより、聞き手によく分かるよう、話す速度・声の調子などを工夫しながら話す

ことが求められる。また、音声を動画に記録したものを再生することにより、伝達したいことがうまく伝わったどうかを客観的に見直し、必要に応じて簡単に修正することができる。「利用者が関心をもって活用し、実際に役立つ情報が提供できる」ガイドブックという目標がどれだけ達成できているか、話し合い活動で検証していきたい。

(3) 単元の指導目標

- ① ガイドブックに関心を持ち、音声・画像などを効果的に活用しながら校区にある史跡をデジタルデータにまとめようとする態度を養う。
- ② 伝えたい情報を整理し、利用者の立場に立って分かりやすい構成を考え、解説文を工夫し聞き取りやすい音声でガイドブックを作ることができる。

(4) 単元の展開 (指導計画) [全10時間]

次	時間	学習活動	指導上の留意点	評価基準と【評価方法】
一	1	① 全文を通読して活動の見通しをもち、プロデューサーについての概要を知る。	・ガイドブックを作る目的や読ませたい相手を想定し、学習のめあてをあきらかにする。	・ガイドブック作りの大まかな過程を理解している。【発言・観察】
	2	② 集めたガイドブックをもとに、分かりやすいガイドブックとは何かを考える。	・ガイドブックを読む視点に気づかせる。	・ガイドブックに共通する形式や工夫を知ろうとしている。 【発言・観察】
	3	③ ガイドブック作成の計画を立てる。	・ガイドブックを作る目的や相手意識を明確に持たせ、書く意欲を高める。	・紹介する史跡、読んでほしい相手などを考えながら計画を立てようとしている。 【発言・観察】
二	4	④ 取材内容と役割分担を考える。	・児童の取材活動の経験や実態に合わせて、取材方法を助言する。	・話し合い活動に意欲的に参加している。 【発言・観察】
	総合	取材をする(現地見学・撮影など)	・全体の風景や注目する部分など工夫して撮影させる。	・目的に合った事柄を考え、メモをしたり撮影したりする。【観察】
	5	⑤ ガイドブック全体の目次、ページごとの内容と構成を考える。	・ワークシートに構想メモを作らせる。	・構成・資料活用方法などを理解している。 【ワークシート1】
三	6	⑥ 構想をもとに下書きを書く。	・読み手にとって分かりやすい構成を考えさせる。目的や意図に応じて、簡潔に書いたり詳しく書いたりする。 ・分かりやすい構成を考え、地図や画像、文章などの配列や書き方	・効果的な表現方法を考え、実際に生かそうとしている。 【観察・ワークシート2】

	総合	パワーポイントとプロデューサーを使ってガイドブックを作る。	を工夫する。 ・伝えたいことが聞き手によく分かるように、話の組み立てや資料の提示の仕方を工夫して音声データを作成させる。	・音声データを分かりやすく補足するためにキーワードや画像などを提示したガイドブックにする。【ガイドブック】
	7 本時	⑦ できあがったガイドブックを提示し、感想を話し合う。	・感想から作り手の意図が読み手にどう伝わったかを考えさせる。	・活動を振り返り、学習の成果と課題を整理しようとしている。【観察・ワークシート3】
四	8	⑧ より分かりやすく、広く活用してもらえるガイドブックにする方法を話し合う。	・デジタルデータの特性を生かし、今後、情報（弘法大師ゆかりの井戸など）を追加したり改善を加えたりすることも意識させる。	・より多くの人に活用してもらおう方法を考えている。【発言・観察】
	総合	前時の話し合いをもとに、ホームページなどで公開する。	・出された意見をもとに必要に応じて改良を加えさせる。	・グループで協力してガイドブックを完成させようとしている。【観察】
	9	⑨ 学習を振り返り、情報の伝え方について考える。	・自分自身の課題と成果を振り返らせる。	・他の教科や総合的な学習で生きて働く力にしようとしている。【観察・ワークシート4】
	10	⑩ 漢字と言葉の学習をする。	・筆順や言葉の使い方など確実に習得させる。	・学習したものを積極的に使おうとしている。【観察・ノート】

① 本時のねらい

グループごとの発表を聞き、自分の考えや感想などをもち、分かりやすく伝えることができる。

② 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価基準【評価方法】
導入	・前書きに書かれた書き手の思いをもとに、学習のめあてを確認する。	・書き手自身もガイドブックをみて、製作の意図が分かりやすく伝えられているかどうか考えさせる。	・学習のめあてを理解し、意欲的に取り組もうとしている。【発言・観察】
展開	・グループごとにガイドブックを発表し、感想を話し合う。 【発表データ】	・書き手として、工夫したこと・苦労したことを発表した後、ガイドブックデータを提示する。 ・メモを取りながら、発表を聞き、書き手の思いがど	・一つ一つの記事の内容によって、分かりやすく効果的に説明しようとしている。 【観察・ガイドブック】 ・書き手の意図が分かりやす

	<p>「橋本市紹介」 「常夜灯のある町」 「古い町並み」 「大庄屋・萱野家」 「義人・戸谷新右衛門」</p>	<p>のようなどころから伝わってきたか、工夫していることなどを発表し、話し合わせる。</p> <p>・教室に掲示されているスキル表にもとづき、友達の発言を自分の意見や考えと比較しながら聞き、分かりやすく伝えさせる。</p>	<p>く伝えられていたかどうかという視点で、具体的な事例などを示しながら話し合うことができる。</p> <p>【観察・ワークシート3】</p>
まとめ	<p>・ガイドブック作成でよかったこと、改良すべきことを話し合う。</p>	<p>・利用者に興味関心を持たせることができたか、分かりやすい説明ができたか、これらについて検証させる。</p>	<p>・ガイドブックの完成度を高めようとしている。</p> <p>【観察・ワークシート3】</p>

2 指導上の工夫

- ・音声での解説を中心にしたガイドブック作りでは、グループごとに話し方の工夫をさせ、めあてをもって取り組ませる。グループごとに考えためあてを、「ナレーション振り返り表」にまとめる。
- ・発表データを聞きながらワークシート3にメモを書かせ、話し方について振り返り、新たな課題を見出せるよう話し合わせたい。
- ・話し合い活動では、教室に掲示されているスキル表にもとづき、友達の発言を自分の意見や考えと比較しながら聞き、分かりやすく伝えるようとする態度を養いたい。
- ・総合的な学習と関連させ、ガイドブック作成の意欲を高め、デジタルデータにまとめる。
- ・デジタルデータである特性を生かし、改良を重ね、web上で公開したい。
- ・音声言語での解説データは、音声再生に鮮明さを欠くが、デジタルカメラの簡易動画を利用することにした。これは、児童にとって動画データの加工編集が簡単であり、個人情報保護を考慮したからである。
- ・肖像権や著作権に留意しながら画像撮影や資料作成を行いたい。

3 評価について

(1) 本時の評価

①育成を目指す能力

- ・目的や意図に応じた表現をするために、言葉の抑揚や強弱などに注意しながら、話題の順序や時間などを考え、計画的に話すことができる。
- ・事象と感想、意見の関係を考えながら、話の内容を正確に聞き取ることができる。

②具体的な評価基準 (B)

- ・ガイドブックの発表データをもとに根拠となる事実を示しながら意見や感想をまとめたり話したりすることができる。
- ・事実と感想を聞き分け、メモを取りながら聞くことができる。

③Aの状況を実現していると判断する際のキーワードとその具体的な姿の例

「ぼくは、〇〇さんと同じで、～だと思ひます。なぜなら、～です。」「わたしは、〇〇さんと違って、～だと思ひます。なぜなら、～です。」「〇〇さんに付け加えて」「わたしは、〇〇の意見に変えます。そのわけは、～です。」

[キーワード] なぜなら、付け加えて、

③ Cと評価した生徒に対する手立ての例

- ・ワークシート3のメモをもとに感想や意見などを考えさせ、教室掲示のスキル表を参考に発表させる。
- ・音声言語での解説を補足するプレゼンテーションのプリントをもとに発表内容を確認させる。

(2) 指導計画全時間の評価

①具体的な評価基準(B)

- ・利用者にとって有益な情報を伝達するという目的を意識し、効果的な表現方法でガイドブックを作ろうとしている

②Aの状況を実現していると判断する際のキーワードとその具体的な姿の例

- ・言葉の抑揚や強弱などに注意しながら伝えたいことが聞き手によく分かるように話の組み立てや資料の提示の仕方を工夫して話したり、重要なポイントを簡潔に示すスライドを作ったり、それぞれのグループでの役割を積極的に果たすことができる。利用者の立場に立って、分かりやすく、興味を持てる、ガイドブックに仕上げるために、総合的に判断し、意見を出し作成することができる。

[キーワード] 利用者の立場に立って 分かりやすく 興味をもって

③Cと評価した生徒に対する手立ての例

- ・作成のための全体計画を示し、自分の役割の内容と意義を確認させる。
- ・グループ間で同じような役割を果たしている児童の経験を聞き、参考にさせる。

成果と課題

- ・ナレーションを分かりやすく補足するためのものとして、目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いたりすることや、地図や画像・文章などの配列・校正を工夫できた。視覚的な要素も「相手に分かりやすく伝えるためには大切である」と実感できた。
- ・話す速度・声の調子などを工夫しながら読み間違えずにナレーションを行うのは、予想以上に困難だったが、記録されたナレーションを再生してみると、間の取り方や発音の仕方などが、客観的に振り返ることができた。そして、グループごとに考えた「ナレーション振り返り表」をもとに、全員が意欲的に挑戦できた。ナレーションの重要性と困難さを共有した後、グループごとに代表者を選んでナレーションを完成させることができた。
- ・児童は、パワーポイントをはじめて使ったので、文章表現やレイアウトなどについてのアイデアをじっくり練る時間的な余裕がなかった。今後、操作方法に慣れてくると、社会見学などの様子を実況放送しているような雰囲気や動画やナレーションを提示するなど、児童の創意工夫が生かされたコンテンツが生み出せそうである。

ワークシート：3 橋本市紹介

☆ナレーション名人チェック表：ガイドブック

	めあて	橋本市	常夜灯	町並み	大庄屋	義人・戸谷
1	場の大きさ、聞き手の人数に応じて、声の大きさを工夫する。					
2	聞き手が理解できるよう、ゆっくり話す。					
3	間を取ったり、声の調子を変えたりする。					
4	大事なところは強調したり、繰り返したりする。					
5	聞き手の顔を見て話す。					
6	見やすく、分かりやすい資料を示す。					
7	伝えたいメッセージがはっきりしていて、理解しやすい。					

★ “デジタル歴史ガイドブック清水” 作りについて

3 単元の評価基準

ア 国語への関心・態度・意欲	イ 書く能力	ウ 話す・聞く能力	エ 言語についての知識・理解・技能
・利用者にとって有益な情報を伝達するという目的を意識し、効果的な表現方法でガイドブックを作ろうとしている。	・目的に応じて、書く必要のある事柄を整理する。 ・目的や意図に応じて、簡潔に書いたり詳しく書いたりする。 ・分かりやすい構成を考え、地図や画像、文章などの配列や書き方を工夫する。	・伝えたいことが聞き手によく分かるように、話の組み立てや資料の提示の仕方を工夫して話す。 ・話し手の意図を考えながら話の内容を聞く。	・必要な語句について辞書を利用して調べる。

5 本時の指導

準備物 ノート型パソコン・プロジェクター・振り返りカード